

リアルタイム現地情報

JA 茨城旭村及び JA ほこたで抑制トマト試験圃場巡回が開催されました

9月9日（月）に JA ほこた、9月13日（金）に JA 茨城旭村で抑制トマト試験圃場巡回が開催され、JA 茨城旭村トマト研究会員8名、JA ほこたトマト部会研究部員10名が参加しました。

JA 茨城旭村トマト研究会及び JA ほこたトマト部会研究部では、現在栽培している品種よりも安定的に高収量をあげられる品種の選定を目的として、春作（4月～8月収穫）及び抑制作（8月～11月収穫）で品種の比較試験を行っています。特に、抑制作では減収に直結するため大きな問題となっている黄化葉巻病対策として、黄化葉巻病耐病性品種の比較試験に力を入れています。また、昨年の抑制作では高温による着果不良が多く発生したことから、夏季高温対策として、屋根散水（ハウスの屋根上に散水し、屋根面を冷却することでハウス内部の気温を下げる方法）の試験も行っています。

圃場巡回では、普及センターから、各春作品種の着果数や果実重などについての試験結果や夏季高温対策試験（屋根散水）の途中経過について説明しました。試作品種を栽培した生産者からは、「試作した品種には、ツヤが無いものや軟らかいもの、長玉、着果数が少ないものがあったため、優良品種をしっかりと見極めたい」との意見が出されました。

今年の試験で有望だった品種は研究会員、研究部員とともに来年度も引き続き比較を行って、年次変動等を確認しながら、部会への導入に向けて支援していきます。

令和6年9月19日（儲かる農業）



圃場巡回の様子